



みつぎっ子

令和6年9月18日

文責 校長 川口 祐子



1. はじめに

この調査は、学力向上を目指して、指導内容や指導方法の改善、生活指導に役立たせる目的で行われているものです。調査は6年生が対象になっています。本校でも毎年、調査の結果を分析し、指導・授業改善に取り組んでいます。質問紙調査の状況も含め、学力調査の結果(概要)をお知らせいたします。

2. 本校の状況について

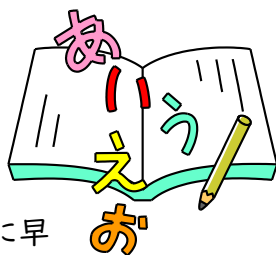
国語	平均正答率は全国・県と同等である。
算数	平均正答率は全国・県と同等である。

- ・ 国語は、「話すこと・聞くこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」、算数は「変化と関係」領域の理解度は低い。
- ・ 国語の領域「情報の扱い方に関する事項」「書くこと」については、昨年度に比べ理解度は高い。

3. 各教科の課題・方策・取組

国語

- ・ 情報の扱い方に関しては、「総合的な学習の時間」でのウェビングマップなどによる思考を可視化し整理する活動に早くから取り組んできた成果が、結果として現れている。
- ・ 全国及び県の平均と比較すると、本校は全体的に無解答率が低い。
- ・ 言葉の特徴や使い方に関して、その関係を捉えながら読みを進めることができている。



【課題】

- ・ 記述問題(漢字を使って書き直すを含む)では無回答率が高くなる傾向がある。また、時間配分ができず、最後の数問に手がつかない様子が見受けられる。
- ・ 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく使うことに課題がある。
- ・ 自分の考えが伝わるように表現を工夫することに課題がある。

【改善のための方策】

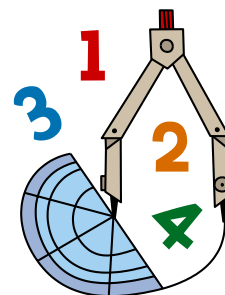
- ・ 話し合いやチャットなどのコミュニケーション活動の場面を授業内に一層積極的に取り入れることにより、多様な方法で自分の考えを伝える機会を増やす。

【継続する取組】

- ・ 漢字を読んだり書いたりする機会を計画的に設定し、漢字練習、漢字の構成、同音異義語などの学習を行う。また、ノートをとる時や学習感想等を書く時、連絡帳等に文や文章を書く際、漢字を正しく使うように指導する。
- ・ 目的や意図に応じ、内容の中心を明確にしながら読む指導では、筆者の考えや意図を根拠となる文を見つけ、明らかにする活動を日常的に取り入れる。また、明らかになった事柄をもとに自分の考えをもち、それを書き表す活動を各単元において取り入れる。

算数

- ・ 直方体の見取り図や直径、円周の長さ、円周率の関係について理解することはできている。
- ・ どの領域についても基礎的・基本的な知識・技能は身に付いており、特に、数と計算、図形、測定、データの活用の領域の正答率は、8割以上となっている。



【課題】

- ・ 球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係性を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことに課題がある。
- ・ 速さを道のりと時間の関係から捉えることはできているが、速さの意味について理解することに課題がある。
- ・ 必要なデータを読み取り、そこで捉えたことを必要な言葉や数を用いて伝えることに課題がある。

【改善のための方策】

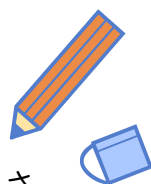
- ・ 身の回りの形から図形を捉え、図形を構成する要素を見だし、体積を求めるために必要な情報を判断できるようにする。
- ・ 日常生活の問題場面に照らし合わせて、求めた速さなどの単位量当たりの大きさや割

合の妥当性を判断できるように指導の工夫を行う。

- 必要なデータを読み取って捉えたことを伝え合う活動を多く取り入れていく。その際、身近な場面から興味や気付きから生じた疑問を解決できるような問題場面を設定するようにする。

【継続する取組】

- 数量の関係を的確に捉えられるようにするために、問題解決の場面において、図や数直線などに表して考えさせる活動に継続して取り組む。
- 答えを求めるまでに複数の段階があり、様々なアプローチが考えられる。そのアプローチでは、自力解決の場面を大切にしつつ、友達と考えを交流する場面を設定し、効果的にICTの活用を図る。
- 「生きる力」を意識し、算数の学習で学んだことが、日常生活の中でどのように役立つのかという点に見童の思いが至るような指導を心がける。



5年生までの授業について

- △「各教科などで学んだことを生かしながら自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」

現在の各教科の授業について

- 「国語の勉強は好きですか」
- 「国語の授業の内容はよくわかりますか」
- 「国語の授業で、物語を読むときに、登場人物の性格や特徴、物語全体を具体的にイメージし、どのような表現で描かれているのかに着目していますか」
- △「算数の授業の内容はよくわかりますか」
- △「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」
- △「算数の授業で学習したことを今後の学習で活用しようとしていますか」
- 「英語の勉強は好きですか」
- 「英語の授業の内容はよくわかりますか」
- 「理科の勉強は好きですか」
- △「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか」

4. 質問紙調査の結果と方策

○は、全国と比較して上回っている項目

△は、全国と比較して下回っている項目

生活習慣・学校生活について

- 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」
- 「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」
- △「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」

家庭学習について

- 「学校の授業時間以外に普段（月曜日から金曜日）、1日当たり1時間以上、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか（遊びなどの目的に使う時間は除く）」
- 「学校の授業時間以外に普段（月曜日から金曜日）、1日当たり1時間以上、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」

5年生までの学習のICT活用について

- △「友達と考えを共有したり、比べたりしやすくなったと思いますか」
- △「友達と協力しながら学習を進めることができると思いましたか」

解答時間について

- △「国語の解答時間は十分でしたか」

【質問紙調査から考える方策】

- 先生が良いところを認めてくれていると回答した児童が多い。しかし、困ったことを相談できるとまでは感じていないので、きもちメーターなどを活用した実態把握、教職員の情報共有や相談窓口の周知などを継続して行っていく。
- 地域や社会へ貢献したいという気持ちを大事にし、引き続きその気持ちを学校教育活動でも育ていく。
- 少しずつではあるが、PCを活用した家庭学習が定着してきている。今後は、それを発展させ、自主学習にも取り組む意識を高めていけるように支援をしていく。
- 5年生までの授業では、ICTの活用に課題があったが、現在はかなり改善されつつある。今後も、ICTを積極的に活用した授業に取り組んでいく。
- 1人1台端末により、自分の考えを発信したり、自分と友達の考えを共有できたりする環境が整備されてきているので、指導を継続していく。

